

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社そうせい舎		
事業所名	グループホームあったか宝来館		
所在地	〒097-0024 北海道稚内市宝来2丁目2番19号 (電話) 0162-26-6000		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月26日	評価確定日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(平成20年11月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人,	常勤換算 6.77人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000~27,000 円
敷 金	有 ( 円 ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	7 名	男性 1 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.5 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立稚内病院、盆子原歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、北緯45度のノシャップ岬、宗谷岬の海岸線に広がる日本最北端の地にあり、オホーツク海を見渡す風情あふれる港町に立地している。かつて旅館として使用された建物を改築して開設しており、過ごしやすく落ち着いた雰囲気を有している。職員は常に「いつも笑顔で、ゆったりと楽しく、いつも寄り添って」という基本理念を基に、家族の意向や利用者の思いを十分に尊重しながら、一人ひとりの生活ペースに合わせた支援をしており、利用者は笑顔が多く精神的に安定した生活を過ごしている。また、職員の熱い思いと、家族からの信頼感、地域との温かいふれあいに囲まれて、利用者の日常的な活動性を保ちながら、住み慣れた町で、楽しくその人らしい暮らしを实践している事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価についての改善課題である、職員を育てる取り組み、同業者との交流、重度化や終末期の方針の共有、災害対策について、それぞれ検討を行い、実践に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を職員全員が理解しており、全員が参加して自己評価に取り組んでいる。また、今回の外部評価後も、改善課題について話し合いや検討、運営推進会議上での報告を予定している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者家族、町内会長、民生委員、消防団員、地域包括支援センター職員を構成員として、開催している。会議では、活動報告や意見交換、事業所だよりの配布、災害時の協力依頼等を行っている。しかし、開催回数が少なく本来の目的を活かすまでには至っていない。今後は、定期開催に向け、幅広い構成員の参加を得るとともに、事業所の活動や利用者の状況、外部評価の結果を受けた改善への取り組み状況等の報告を行い、助言等を得て、地域との交流促進に向けて活かすことが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、日ごろから家族との交流を大切にし、家族が気軽に意見、要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。意見等については直ちに検討し、希望に沿うような対応を行っている。また、広報誌「あったか風便り」で、毎月たくさんの写真を掲載して利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、利用者一人ひとりの様子を個別に記載した文章を用意するなど、家族に喜ばれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者を含め全職員が、地域に根ざす大切さを認識しており、地域に馴染んだ生活づくりに努めている。町内会に加入しており、地域の情報を集めたり、町内会主催の夏祭りに参加するほか、近くの幼稚園との交流も盛んに行っている。また、敬老会への招待を受けたり、ボランティアの受け入れを行うなど、地域との交流を積極的に行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつも笑顔で・ゆったりと楽しく・いつも寄り添って」という事業所独自の理念をつくりあげている。地域との関わりも関連性をもたせた説明をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に運営理念を掲げており、日々意識することで、ケアサービスの実践に活かすよう取り組んでいる。また、毎月の会議やカンファレンス、利用者や家族との関わりの中でも確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者を含め全職員が、地域に根ざす大切さを認識しており、地域に馴染んだ生活づくりに努めている。また、町内会に加入することで情報を集めるとともに、町内会主催の夏祭りに参加したり、近くの幼稚園との交流も盛んに行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を職員全員が理解しており、全員が参加して自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価結果についても話し合いを行い、評価を活かした改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族、町内会長、民生委員、消防団員、地域包括支援センター職員を構成員とし、開催している。会議では、活動報告や意見交換、事業所だよりの配布、災害時の協力依頼等を行っている。しかし、開催回数が少なく、本来の目的を活かすまでには至っていない。	○	今後は、運営推進会議の定期開催に向け、幅広い構成員の参加を得るよう働きかけるとともに、事業所の活動や利用者の状況、外部評価結果を受けた改善への取り組み状況等の報告を行い、助言を得て、地域との交流促進に向けて活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、疑問点について問い合わせを行ったり、市主催の研修会や、2ヶ月に1度開催される地域ケア会議に、積極的に参加している。また、福祉事業関係者と情報交換をしながら、共にサービスの質の向上を目指して関わりを大切にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「あったか風便り」に、毎月多数の写真を掲載して利用者の暮らしぶりを伝えるとともに、利用者一人ひとりの様子を個別に記録した文章で家族に伝えている。また、職員は、家族の来訪時にその都度、利用者の日常の様子を細かく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日ごろから家族との交流を大切にし、家族が気軽に意見、要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。また、意見等の内容については直ちに検討し、希望に沿った対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、最小限に抑えるよう母体法人全体で努力しており、現在も職員は定着している。また、職員が代わる場合には、利用者とは早く顔なじみになるよう工夫するなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、人材育成の重要性を認識しており、市内で開催される研修にはできるだけ職員が出席できるようにしている。また、職員一人ひとりの知識や経験に応じた研修にも交替で参加し、参加後も職員間での報告を行って共有化も図っている。さらに、今後もより多くの研修に参加できるように検討中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当地域には他事業所が少ないが、市の地域ケア会議に出席することで、介護、福祉関係者との意見交換を行っている。さらに今後は、新規開設の事業所と協働で、情報交換の場について検討することを計画中である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用についての問い合わせ時から、本人や家族と面談しており、事業所を見学したり、職員と共に事業所で過ごすことで、雰囲気になじんでもらい、利用開始につなげている。また、利用者の状況により、夜間増員等の職員配置の検討も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援を行っている。また、利用者から生活の知恵や料理の味付けを教わったり、励まされたりしながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自の専用シートの使用により、利用開始時に利用者の生活歴や心身の状況等の情報を収集している。また、利用開始後も随時アセスメントを行い、家族の意見や、日々の暮らしの中での本人の希望、意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は、職員間で話し合いながらケアに反映させている。しかし、介護計画の目標やケア内容に対し、連動して記載する書式にするまでには至っておらず、記録から評価の達成状況についての把握がしにくくなっている。	○	利用者それぞれの生活目標に応じた、対応の実践状況の記録は、介護計画の評価や検討の場面で重要な要素となり、記録方法については職員も今後の検討課題と捉えており、今後は、介護計画書に連動し、日常の記録を記載するよう取り組むことが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は、6ヶ月ごとに定期見直しを行っている。また、担当者会議や3ヶ月に1度のモニタリングを行う際には、スタッフの日ごとの気付きや日常の記録から、利用者の状態変化に応じて、随時計画変更も行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎やドライブ、必要品の買い物等、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また、一時帰省や家族送迎、観光地の見学等の対応も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は、利用者の希望する医療機関への通院に同行し、主治医に状態の報告をするとともに聞き取りを行い、受診後は家族に報告している。また、急な体調不良時等にも、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に緊急時の対応を記載しており、家族と方針を共有している。今後は、重度化や終末期対応についての検討が必要と考えており、口頭での申し送りや確認だけでなく、家族の意向確認や文書での同意、職員間での情報共有等について検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけている。また、写真の掲載や名前の表示、個人情報の管理についても、プライバシー保護のための対応を契約書に記載し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、強制することなく、職員は利用者一人ひとりを尊重し、体調や生活歴を大切にしながら、その人らしい生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を採り入れながら、日々の献立を作成するとともに、食事の準備、調理、後片付け等を一緒に行っている。また、夏には事業所で収穫した野菜も献立に盛り込み、食事が楽しみの一つとなるような支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、自由な時間帯で入浴が可能となっている。毎日の入浴も可能であり、利用者がくつろいで入浴できるよう支援している。また、必要に応じてシャワー浴や清拭も、さりげない声かけで行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、掃除、買い物、菜園づくり、手芸など、一人ひとりの生活歴や力を活かした趣味や役割を持てるよう、職員は支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、外食など、利用者の希望に応じた無理のない外出支援を行っている。また、近隣市町村の観光名所見学や、近郊の温泉にも、事業所所有の車で出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。利用者に外出する様子が見られる時は、さりげなく声かけをし、利用者の安全面に配慮しながら一緒に出かけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力の下、避難訓練を行っている。夜間を想定したり、車椅子を使用している。夜間を想定したり、車椅子を使用している。外階段を利用した安全の確保をするとともに、緊急時に地域からも協力が得られるような関係を築いている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や、1日1000～1500ccを目安とした水分摂取量を、個別に記録しており、職員は情報を共有しながら、利用者の体調管理を行っている。また、管理栄養士による食事メニューの点検も、年間を通じて適宜行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的で、ソファやいすを設置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるような空間となっている。また、南向きに大きな窓があり、明るく心地よい居場所づくりに配慮している。光、温度、湿度等も適宜調節し、気になるにおいもなく、一日を過ごす憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使いやすいように家具や小物を持ち込んでおり、本人が安心して暮らせるような工夫をしている。また、これまでの生活と変わることのないよう、家族の写真等を貼るなどして、利用者の精神的負担を軽減する配慮をしている。		

※  は、重点項目。